

まつなみ News

胎児ドックが始まります

胎児ドックとは簡単にいうとおなかの赤ちゃんの人間ドックです。産まれてくる赤ちゃんの2%~5%には先天的な問題があるとされています。何の治療も必要ないものもあれば、命に関わるものまで、その内容は多岐なものであります。

今、日本では産まれる前に赤ちゃんの異常が分かる確率は約50%です。岐阜大学・長良医療センターを通じて、私たちは90%程度の異常を産まれる前に見つけてきました。もちろん目指すところは100%の発見ですが、残念ながらそういう訳にはいきません。

具体的には妊娠20週頃と30週頃に赤ちゃんを超音波で診察します。20週の赤ちゃんからは命に関わるような異常を発見できるように努力しています。30週頃の胎児ドックでは、赤ちゃんの形態的な異常だけではなく、発育の問題も評価することができます。

もしも2回の検査で異常がみつかなかったら、万一赤ちゃんに問題があったとしてもそれは産まれる前に判るものではありません。「心配しなくていいですよ」というのが胎児ドックの本来の目的です。

*詳しくは、産婦人科外来までお問い合わせください。



産婦人科周産期医療対策室 室長
かわばた いちらう
川鱈 市郎

松ゼミ

認定・専門看護師による講義を通して、看護の質を高め、専門職としてのスキル向上
周辺病院施設の看護師との意見交換の場とし、地域医療強化を目的としたセミナーです。

● 救急看護

【日付】平成28年5月17日(火) 【時間】17:30~

【テーマ】「急変時対応」

【場所】松波総合病院 南館 MGHホール

急変はどの場所でも起ります。そんな時… あなた1人で対応できますか? 焦ってしまうことはありませんか? 医師への連絡、応援要請は速やかに的確にできますか? 少しでも対応できるようになりたいと思いませんか?

救急認定看護師 杉原 智子

● スキンケア

【日付】平成28年6月29日(水) 【時間】17:30~

【テーマ】「あなたも明日からスキンケアナース!」～脆弱な皮膚のスキンケアを極める～

【場所】松波総合病院 南館 MGHホール

高齢に伴う皮膚の脆弱化から、摩擦やすれにより容易に皮膚が裂けるスキン・テア(皮膚裂傷)、医療用テープの取り扱い等、スキンケアの基本を見直しスキンケアの本質を学びます。研修後すぐ実践に活かせる内容です。ぜひ、この機会に今あなたが行っているスキンケアを振り返ってみませんか?

皮膚・排泄ケア認定看護師 鶴飼 淳

平成28年 糖尿病教室

● 春の特別講演

【日付】平成28年5月7日(土) 【時間】14:00~15:30

【テーマ】「糖尿病ってどんな病気?」【場所】松波総合病院 南館 MGHホール

【講師】松波総合病院 内科 藤澤 太郎

*無料(事前申し込みが必要ありません。どなたでもお気軽にご参加ください。)

● 運動実習会

【日付】平成28年6月25日(土) 【時間】13:30~15:00

【場所】松波総合病院 南館 MGHホール

*事前申し込みが必要です。詳細は院内掲示ポスターをご覧ください。

講演会のお知らせ

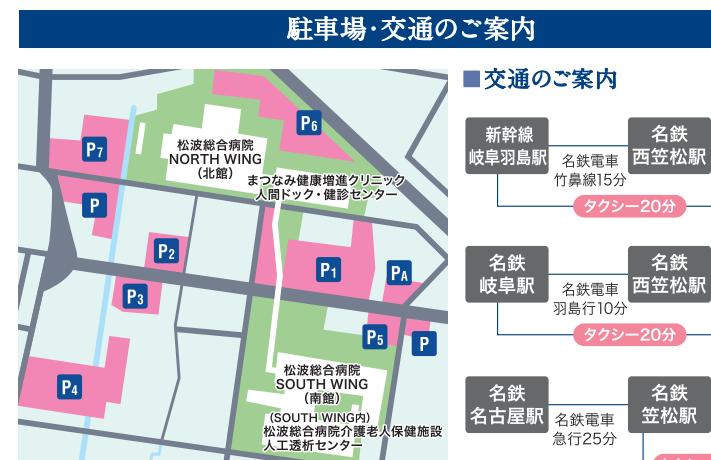
第105回 すこやかネットワーク

【日時】平成28年5月18日(水) 19:00~

【場所】松波総合病院 南館 MGHホール

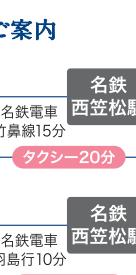
【テーマ】「肺がん治療の現況」

【講師】松波総合病院 副院長・呼吸器外科部長
春日井 敏夫



駐車場・交通のご案内

■ 交通のご案内



5
2016 May
No.199

患者さまと病院をつなぐかけはし
まつなみ
[発行] 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院



全国でも
数少ない
病理医

松波総合病院の「医療の質」を
支える病理医(プロフェッショナル)という存在

病理医の日々

病理医歴40数年。病院で病理やってますと言うと、料理と間違われてきました。説明すれば長くなるのでついついそのままにしていたこともあります。最近放映されたテレビドラマの「フラジャイル」の主人公は病理医。百聞は一見にしかずか、それを観ているといふ友人から、「あんな仕事しているの?すごい」に戸惑っています。主人公を演じているのが長瀬智也、あの眼光鋭いアップ映像にすごいと言っているのかもしれない。現場からみれば突っ込みどころ満載のドラマであったが、顕微鏡にガラス標本を載せて、10倍から1000倍まで、行ったりきたりしつつミクロの世界をのぞいているのが病理医の姿です。

当院では、臨床の先生が針などをさして臓器の一部をとってきた生検、手術摘出標本をパラフィンブロックにし3~5ミクロンに薄切りし、ガラスに貼り付けて染色した組織標本、癌手術の際の切除範囲を決めるために、

切除端を凍結、薄切りし染色、20分以内で執刀医に返事をする術中診断。また、尿、痰、腹水、胸水、膿スマエなど細胞をガラスに塗って染色、細胞の良悪を診断する細胞診。さらに当院でお亡くなりになった方について、ご遺族の承諾をいただいた主治医の依頼で、病理解剖をさせていただき、病変、病態の検索を行っています。病理医は肉眼で病変部を切り出し、作製されたガラス標本をひたすら顕微鏡を見て診断しています。これらのガラス標本を作製するのは臨床検査技師で、当院では、年間組織診断4000件、細胞診断6000件、病理解剖40体、作製されるガラス標本実数はこの10倍はくだらない。臨床検査技師がいての病理診断部です。

この40数年の医療の進歩は目覚しく、化学療法、分子標的治療薬がどんどん開発され、免疫染色、遺伝子変異解析等が治療選択の必須検査です。その検査をするには、ガラス

標本作成過程に出来、保管されていたパラフィンブロックを取り出し、薄切し検索します。当院には開設以来のガラス標本とともにパラフィンブロックが保存されており、私はこれらこそが病院の宝と自負しています。これらの出し入れの実務はスタッフが行っています。これからはますますこれらが利用されていくでしょう。そして癌なんて怖くない時代を夢みて病理医はひたすら顕微鏡をのぞいているのです。



病理診断科部長
いけだ つねこ
池田 康子



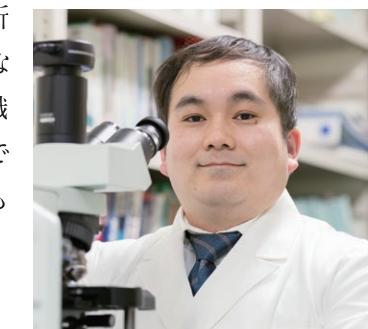
病理医の業務について

当院での病理医の業務で、重要な位置を占めているものが癌に関する診断です。癌の病理診断は主として質的診断と局所進行度の診断からなり、大腸癌、胃癌、乳癌、前立腺癌など体表からや内視鏡での病変部への到達が比較的容易な臓器については、通常生検により癌であることの診断（質的診断）を確定させた上で手術が行われます。肺癌、膵臓癌、胆道癌、卵巣癌、腎臓癌などの生検が困難な臓器、生検によるリスクが大きな臓器では、臨床診断や画像診断の情報のみで手術に踏み切る場合もあります。手術適応の症例については週1回の外科、放射線科、病理診断科の合同カンファレンスで検討されています。

手術で切除された臓器は病理部に提出され、固定処理の後、病理医によって病変の代表部が切り出され、標本が作製されます。作製された標本を顕微鏡で観察し、癌の組織型、水平方向の広がり、深達度（癌の先進部の深さ）、切除マージン、リンパ節転移の有無などを評価します。成人において頻度の高い癌については、臓器ごとに癌取り扱い規約と呼ばれる標準化された診断指針が各学会によって作成されており、この中に定められた評価項目に基づいて診断を記載していきます。手術日から1週間程

度で病理診断報告書が臨床医に提出され、これを元に臨床医から患者様への説明が行われています。

術前診断、手術所見、病理所見が概ね予測の範囲内である癌についての診断の流れは左記のごとくですが、非典型的な臨床経過や発生部位、肉眼所見を呈する腫瘍性病変疑いの症例に対しては腫瘍であるのか非腫瘍性病変であるのかの鑑別から診断を進めています。免疫組織化学等の手段を駆使して、腫瘍性病変である場合にはその発生母地や悪性度を推定します。このような症例の診断に標準化された手段ではなく、病理医の背景知識の深さが問われるものであり、診断の醍醐味でもあります。



病理診断科医員
はまやす ひでき
濱保 英樹

臨床検査技師の業務について

病理診断部は患者様の体から採取された組織、細胞の形態学的判定を行っています。

臨床医が採取してきた検体から作製された染色標本を観察し細胞レベルの診断をすることを病理組織診断と言いますが、この病理組織診断は癌などの代表的な病気の診断を下すときなどに大きな役割を担っています。病理診断部での臨床検査技師としての第一の仕事は外来や病棟などで採取された検体（臓器や組織など）を病理医が顕微鏡で観察ができるように処理し染色標本を作製することです。

組織診断での臨床検査技師の業務は臨床医が患者様から採取した検体を病理医と共に病変部を切り出しパラフィンで固め3～5μmの厚さに薄く切りスラ

イドガラスに貼り付け、癌や病気の種類を特定するために目的にあった染色（見やすく色付け）をして病理医に提出します。切り出し時には検体の取り違えが起きやすいため必ず病理医と臨床検査技師でダブルチェックを行い、切り出した臓器を写真で撮影しスケッチしています。

細胞診では外来や病棟から提出された痰や尿、腹水、胸水などの液状検体、健診等で採取してきた子宮頸部など擦過物をスライドガラスにのせ染色し細胞検査士が顕微鏡で観察し前がん細胞などの異常細胞をスクリーニングした後病理医に提出します。特徴としては患者様に対して侵襲が少ない検査で手軽に検体を採取することができ、肺癌健診や婦人科健診で癌になる前の異型細胞を発見することができます。

病理検査は病気の確定診断や術前の検査など患者様の治療に大きく関わり影響します。昨今ニュースで取り上げられているような検体の取り違えをしないために当院では検体を採取して容器に入れる時、運ばれてきた検体の受け渡しの時、検体を切り出す時、標本が出来上がった時など様々な過程でチェックを行っています。



臨床検査技師
いわむら かずき
岩村 和樹

平成28年度 入社式

平成28年4月1日、松波総合病院 南館1階MGHホールにて「社会医療法人蘇西厚生会 平成28年度入社式」が行われました。本年度は研修医9名、看護師30名、薬剤師9名をはじめ総勢75名の新入職員が入社式に参加しました。

入社式では、当法人 理事長より新入職員に「医療人としての心構えや今後の医療業界の流れ」について訓話があり、新入職員は緊張の面持ちで話を聞いていました。その後、職員カードの作成、ユニホームに着替えを経て昼食会に臨む頃には、緊張も和らぎ笑顔で回りの仲間を自己紹介していました。

まだまだ至らない点が多いと思いますが、皆様ご指導をお願い致します。



入職者代表の挨拶



小さいころからの夢であった看護の道へのスタートラインにいよいよ立つことができ、松波総合病院の一員として働くことができる事を嬉しく思います。至らない点も多々あると思いますが、「この人に会えてよかったです、またこの人に看護してほしい」と思っていただけるような職員を目指し、先輩方から多くのことを学ばせていただきたいと思います。また、将来は認定看護師の取得を目指し、患者様により良い看護を提供できるよう努力していきたいと思います。



私の学生時代の恩師から「理学療法士という資格を一つの手段として用いろ」という言葉を頂きました。理学療法士免許という意味では全て同じですが、できることは一つではないという意味です。理学療法士という資格を利用して自分が最も活躍できる場所や自分だけの武器を探していきたいです。理事長先生から頂いた「優勝劣敗」の言葉を胸に、何事にも積極的に挑戦して、経験を積ませていただきたいです。どうかご指導の程よろしくお願い致します。

理事長先生から頂いた「優勝劣敗」の言葉を胸に、何事にも積極的に挑戦して、経験を積ませていただきたいです。どうかご指導の程よろしくお願い致します。